

202 イエスの墓にて(番兵、墓を見張る)

マタイによる福音書 27 : 61~28 : 1

▶番兵、墓を見張る (マタイによる福音書 27 : 61~66)

61 ①マгдаラのマリアと②もう一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

→マルコによる福音書 15 : 47

①マгдаラのマリアと②ヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

→ルカによる福音書 23 : 55~56

イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちは(→①②)は、(アリマタヤの)ヨセフの後について行き、墓と、イエスの遺体が納められている有様とを見届け、家に帰って、香料と香油を準備した。

→香料と香油：没薬や沈香(ヨハネ 19 : 39)これらはパレスチナでは産出できないので、高価だった。

→あのベタニアのマリア(マルタの妹、兄弟ラザロ、ヨハネ 11 章)だけは、全く出てこない。その理由は次のとおりである。

ベタニアのマリアだけは霊的にイエスの受難と復活とを理解できていた。それを察知した彼女はイエスの足に香油を塗り、埋葬の準備を既に終えていた。

→ヨハネによる福音書 12 : 1~3

過越祭の六日前に、イエスはベタニア●に行かれた。そこには、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいた。イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々の中にいた。そのとき、マリアが純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ(→約 326 g)持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。



【参考】イエスの十字架の時、そばにいた人たち(人名等は聖書の記述順)

マタイによる福音書	27 : 56	①マリア (→子：イエス、小ヤコブ、ヨセ(ヨセフ)、ユダ、シモン) ②マгдаラのマリア ③ゼベダイの子(大ヤコブ、弟のヨハネ)らの母サロメ
マルコによる福音書	15 : 40	②マгдаラのマリア ①小ヤコブとヨセ(=ヨセフ)の母マリア ③サロメ (→ゼベダイの子である大ヤコブと使徒ヨハネの母なるマリア)
ヨハネによる福音書	19 : 25	①マリア (←その母) ④母の姉妹 ⑤クロパの妻マリア ②マгдаラのマリア

} 回復訳：イエスの母の姉妹でクロパの妻マリア
→母の姉妹=クロパの妻マリアとが同じ人

62 明るる日、すなわち、準備の日の翌日(→土曜日、安息日)、祭司長たちとファリサイ派の人々は、ピラトのところに集まって、63 こう言った。

「閣下、人を惑わすあの者(→イエスのことであるが、当時のユダヤ人たちは辱めを受けた者の名前を口にするにはなかった)がまだ生きていたとき、『自分は三日後に復活する』と言っていたのを、わたしたちは思い出しました。64 ですから、三日目まで墓を見張るように命令してください。そうでないと、弟子たちが来て死体を盗み出し、『イエスは死者の中から復活した』などと民衆に言いふらすかもしれません。そうすると、人々は前よりもひどく惑わされることとなります。」

→安息日にもかかわらず、祭司長たちとファリサイ派の人々は、活発に動いている。彼らは安息日をどうとらえているのか、彼らの神への敬虔さは、自分たちに都合のよいものであることがうかがえる。彼らは、イエスを辱め、馬鹿にし、イエスのことを信じなかったが、イエスの言ったことは覚えていた。

彼らは、イエスが復活することを信じているわけではない（非常に悲しく残念ですが、イエスの弟子たちもイエスが復活することは信じていなかった）が、イエスの弟子たちが死体を墓から出して、復活劇をでっち上げることを恐れた（←悪人の発想）。

65 ピラトは言った。「あなたたちには、番兵がいるはずだ。行って、しっかりと見張らせるがよい。」

→回復訳：ピラトは彼らに言った、「番兵を連れて行け。行って、しっかりと墓を警固せよ。」

→リビング・バイブル：ピラトは答えました。「よろしい。では厳重に見張らせるがよい。」

66 そこで、彼らは行って墓の石に封印をし、番兵をおいた。

→封印を破ると死刑（警備の番兵も同罪）である。



▶復活する（マタイによる福音書 28：1）

01 さて、安息日が終わって（→土曜日の日没後）、週の初めの日の明け方に、**①**マグダラのマリアと

②もう一人のマリアが、墓を見に行った。

→マルコによる福音書 16：1

安息日が終わると（→土曜日の日没後）、**①**マグダラのマリア、**②**ヤコブの母マリア（→イエスの母）、

③サロメ（→ゼベダイの子である大ヤコブと弟ヨハネの母）は、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。

→ユダヤ教の安息日は、金曜日の日没から土曜日の日没まで続いた。翌朝、日曜日の夜明けになれば、女性たちはイエスの遺体に香料を塗るため墓まで行くことができた。

【参考】聖書に登場する「三日目に復活する」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 9 / 聖句等の総数 33250 <三日目に>9個<復活>9個] (新共同訳) [検索語彙: 三日目に・復活]
S マタイによる福音書	16:21 このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。
S マタイによる福音書	17:23 そして殺されるが、三日目に復活する。」弟子たちは非常に悲しんだ。
S マタイによる福音書	20:19 異邦人に引き渡す。人の子を侮辱し、鞭打ち、十字架につけるためである。そして、人の子は三日目に復活する。」
S ルカによる福音書	9:22 次のように言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」
S ルカによる福音書	18:33 彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。」
S ルカによる福音書	24:7 人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」
S ルカによる福音書	24:46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』
S 使徒言行録	10:40 神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。
S コリント信徒への手紙 I	15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、

【参考】三日三晩

マタイによる福音書 12：40 には、「つまり、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、大地の中にいることになる」と記されている。

神は預言者ヨナを選び、アッシリアの首都ニネベの人々に悔い改めて、神の赦しを求めるように語らせようとした。ところがヨナは神がイスラエルの敵であるアッシリアを赦されるのを望まなかったので、船に乗って逃げてしまう（ヨナ書 1：3）。しかし、神は嵐を起こし、ヨナは荒れた海に放り出され、巨大な魚に呑み込まれてしまう（同 1：12～17）。そして、ヨナは三日間、魚の腹の中に留まるが、神の命令により魚はヨナを陸地に吐き出した（同 2：11）。ヨナに神の言葉が再び臨み、ヨナはそれに従いニネベに向かう（同 3：1）。イエスはヨナが大魚の中で過ごした日数と同じ日数を、自身も墓の中で過ごすと言っている。

【参考】神の子イエス

▶ローマの信徒への手紙 1：4

聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。

▶ローマの信徒への手紙 4：25

イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。

▶コリントの信徒への手紙一 15：20

しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となりました。

▶コリントの信徒への手紙一 15：23～24

ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。

▶エフェソの信徒への手紙 1：20～21

神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。